



外国語（英語）活動でも役だつ地図帳

富山大学人文学部 准教授 大西 宏治



1. 地図帳で外国語のことを考える

地図帳は小学4年生から配布される教科書です。小学校社会科の学習内容を見ると、地図帳を通して日本国内のを中心に学ぶこととなります。しかし、地図帳には世界のさまざまな国や地域のことが掲載されていますし、地球儀の活用方法についても言及されています。せっかく地図帳に興味をひく海外のことが記されているのに、それを利用しない手はありません。ただ、社会科のなかで海外に触れながら地図帳を開く機会は限られます。それならば、他の教科や活動のときに地図帳を開いてみてはどうでしょうか。

今回は外国語活動での地図帳の利用を紹介します。平成23年度から小学校5、6年生で外国語活動が必修化されました。外国語活動では、基本的に英語を取りあげます。外国語を介したコミュニケーションを図ることが活動のねらいです。また、平成32年度からは外国語（英語）が教科化されることが予定されています。

英語が話されている地域やそこでの生活について知ったり、地図もコミュニケーションツールの一つとして活動のなかで活用されたりすると、児童もより学習意欲が高まるかもしれません。コミュニケーションの入り口としての地図帳の活用を考えてみます。



2. 世界に広がる英語

日本では小学校の外国語活動から始まり、

中学校、高校でもいくつかの例外を除けば、外国語として英語を学習します。それはなぜでしょうか。いくつか理由があります。

まず、イギリスの植民地政策です。イギリスは世界各地に進出し、それぞれの場所で英語を公用語として利用したため、英語が世界に広がりました。また、第二次世界大戦後、世界経済の中心がアメリカ合衆国となったことや、さまざまな国際機関の共通言語に英語が使われるようになったことも英語が広がった理由といえます。おそらく、母語として中国語を話す人が地球上に一番多いのですが、中国語は東アジアのごく狭い地域でしか使用されません。また、人口のきわめて多いインドで公用語の一つとして利用されているヒンディー語もやはり広がり局所的で

では、英語を主要な言語としている国はどのように広がっているのでしょうか。インターネットで検索したり、書籍を調べたりすると、いろいろなデータが出てきますので、それを利用して地図化してもよいかもしれません。ここでは学校の図書館にもおいてある（公益財団法人）矢野恒太郎記念会編『世界国勢図会 2016/17』を利用して調べてみることにしましょう。そこには独立国の一覧表があり、主要言語が記載されています。それを頼りに、英語を主要言語とする国を探り、その結果を地図帳を見ながら世界の白地図上に着色して示してみましょ。クラスでグループをつくってそこで割り当てて作業すると効率が高くなると思います。その結果、完成したものが図

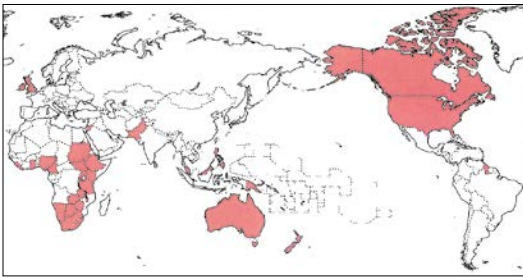


図1 英語を主要言語とする国(赤)

1です。世界中に英語が広がっていることがわかります。

英語は世界中で使用されているため、各学校にALTとしてやってくる教師の出身地も多様です。このように児童とともに英語を使用する国の分布図を示して、出身地をたずねてもおもしろいでしょう。ALTの出身地がアメリカ合衆国やカナダであれば、その州や町について、『楽しく学ぶ小学生の地図帳』p.63～64を示して質問してもよいと思います。アメリカ合衆国については、地図帳に詳しい地図(図2)がありますし、地域の情報も豊富ですので、ALTとコミュニケーションが弾むかもしれません。

地図は図上で位置を示すことに特化したコミュニケーションツールです。外国語活動の主要なねらいがコミュニケーションをする力の醸成にあるのであれば、言語でうまく会話が成立しない人と、地図を介して、対話してみてもよいかもしれません。言語を学ぶ入り口が広がると思います。



図2『楽しく学ぶ小学生の地図帳』p.64



3. おわりに

このように、外国語活動において、地図帳を活用することで、コミュニケーションを円滑にすることができます。そもそも、よく知らない相手とコミュニケーションをするとき、日本人どうしても出身地をたずねることで、会話が円滑になることがあります。外国語活動のなかで、ALTも含めていろいろな人たちと地図帳を介して情報を交換することが、円滑なコミュニケーションにつながることを体験するのも重要な取り組みだと思います。外国語活動でもぜひとも地図帳を利用してください。

Let's try!

●地図を使って外国語活動!

今号の別冊資料「WORLD MAP」は、小学校で学習するおもな国々をイラストを使って紹介した世界地図です。国名は欧文も表記しており、地図を見ながら、どの国に行ってみたいか、その国でどんなことをしたいかなどの会話をういた外国語(英語)活動にもお使いいただけます。

児童の皆さんがテレビで観たり、本を読んだりして、あらかじめもっている国のイメージを思い出しながら、行ってみたい国を考えることができます。また、知らない国についても、世界遺産や

動物、スポーツ、食べ物などのさまざまなイラストから、その国に対するイメージがわくように作成いたしました。地図を使うことによって、日本から近い国はどの国か、遠い国はどの国かということも、自然にわかっていくことでしょう。

ALTや外国人の児童、外国から帰国した児童の関連する国について記載がない場合は、あとから国名を書き入れたり、イラストや写真を切り抜いて貼ったりして、加えて使うこともできます。

楽しく外国語(英語)活動にお役立てください。

(編集部)